

在宅妊婦遠隔診療支援システム“エンゼルケア”

西田正実*
松室昌宏*
小室久美子**

要 旨

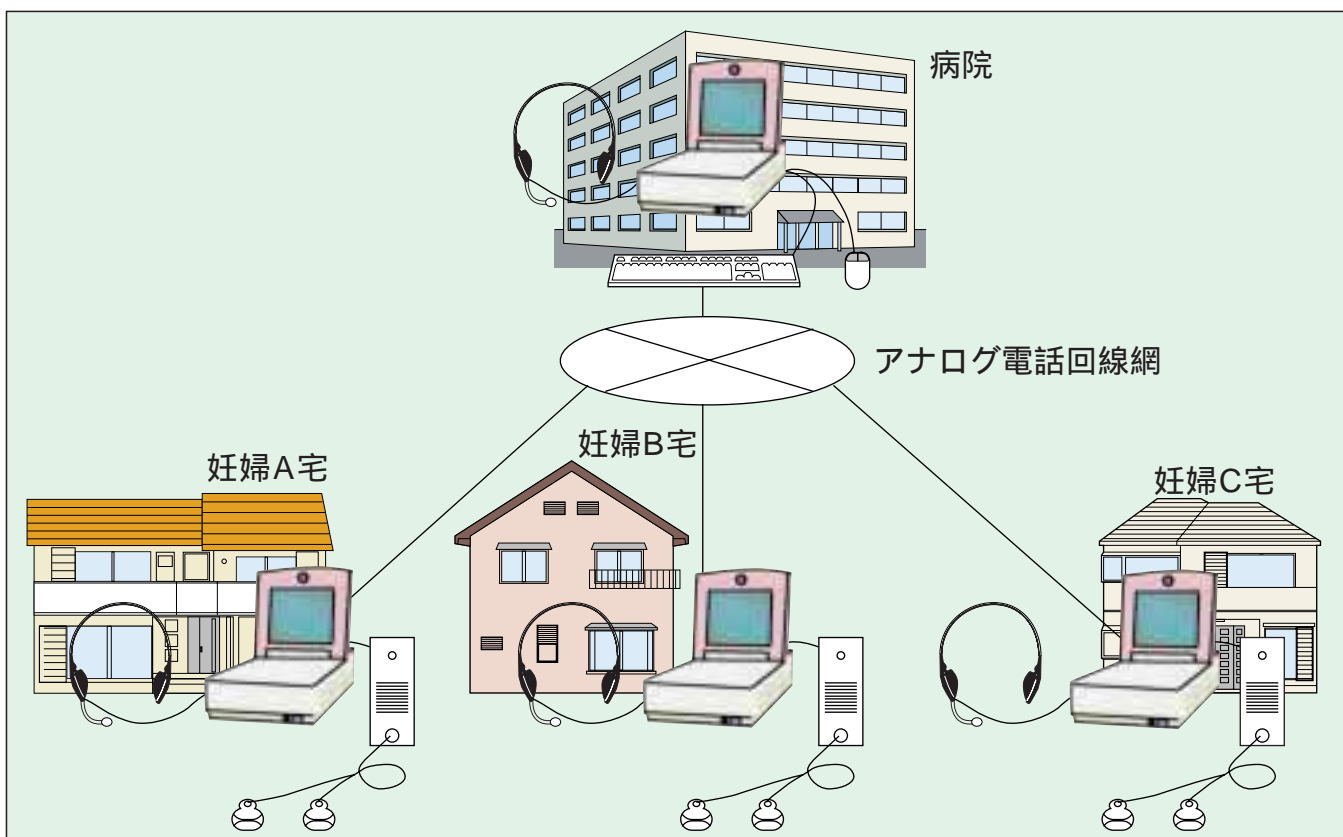
我が国の少子化問題の背景には、現代社会が子供を産み育てにくい環境であることも一因と言われている。

出生数の低下とともに産婦人科医や分べん(娩)を取り扱う施設数が減少傾向にある中で、有職女性の出産や出産年齢の上昇などに対するきめ細かな診療体制作りが求められている。

出産までの定期的妊婦検診は、安全に出産を迎えるために不可欠であるが、おなかの大きくなった妊婦にとって、通院は、時には負担やリスクを伴う。

三菱電機は、妊婦の定期検診における通院の負担を軽減する在宅妊婦遠隔診療支援システム“エンゼルケア”を製品化した。このシステムは、一般のアナログ電話回線を介した通信により、テレビ電話機能と陣痛・胎児心拍数のデータ計測伝送機能等を実現し、妊婦が自宅で医師の診察を受けられるようにするものである。

フィールドテストにおいては、このシステムの有効性が医師から報告されており、使用した妊婦からも好評を得ている。



エンゼルケアシステムのネットワーク構成

アナログ電話回線を通じて、病院に設置された医師側端末と妊婦宅に設置された妊婦側端末との間で、テレビ電話による問診と妊婦の陣痛・胎児心拍数の計測データを伝送できるようにした。これによって、妊婦は定期検診の通院回数を減らす、心配なときに医師に情報を伝達できるなど、負担やリスクを軽減できるようになる。